

2024年12月19日
国立大学法人東京大学
岩手県

東京大学・岩手県が地域連携に関する全学協定を締結

——地域課題への対応と活力ある個性豊かな地域社会形成に貢献——

国立大学法人東京大学（本部：東京都文京区、総長：藤井輝夫、以下「東京大学」）と岩手県（知事：達増 拓也）は、本日、連携・協力に関する基本協定を締結しました。この協定はこれまでに積み重ねてきた協力関係をより一層強化し、岩手県の復興および地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成、発展に寄与するものです。

■協定締結の経緯

岩手県と東京大学とは、昭和48（1973）年に東京大学海洋研究所・大槌臨海研究センター（現：大気海洋研究所・大槌研究拠点）が岩手県大槌町に設置されて以降、長く様々な連携を続けてまいりました。特に2011年3月11日の東日本大震災以降は、東京大学と大槌町（岩手県上閉伊郡）の間で「国立大学法人東京大学と大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携・協力に関する協定書」を締結し、大槌町以外でも東京大学の多くの部局が、被災地の復旧・復興及びこれらに続く地域課題の解決に向けた積極的な活動を岩手県内各地で展開してきました。これらを背景として、東京大学と岩手県のさらなる連携強化を通じ、希望郷いわての実現を目的として全学包括連携協定を締結することとなりました。

■連携協定の概要

岩手県と東京大学とは、いわて海洋研究コンソーシアムへの参画による研究や情報通信技術・情報科学を活用した遠隔教育、釜石市との協働による「海と希望の学園祭」の開催、海洋再生可能エネルギーの実用化に向けた研究開発、県北におけるビヨンド・”ゼロカーボン”社会の実現に向けた取り組みなどの連携を進めてきました。

今回、次の5項目で包括連携協定を締結し、さらなる連携を進めていきます。

- ・ 東日本大震災津波及び大規模自然災害からの復興の推進
- ・ 地域の課題対応のための学術研究の推進
- ・ 地域における取組みを通じた人材の交流と育成
- ・ 学術研究の成果の社会実装
- ・ その他本協定の目的を達成するために必要な事項